工人 作家カタログ 2017-

### 工人 作家カタログ

工芸作品との出会いは、工芸作家との出会いから始まります。

作品は作家の手で完結するのではなく、価値創造の出発点に すぎません。工芸作品は芸術品でありながら、人が使うことで さらなる輝きを放ち、真の美と価値が生み出されるのです。

作家が使う人を知り、使う人が作家とその作風を知ることは、 真の価値創造において欠かせないものなのです。

### 工人の作家たち

京都の工芸界では、二十余年もの技術修練と感性の研鑽を経て、四十歳を過ぎて新人作家として歩みだします。五十際半ばになって中堅と呼ばれ、工芸作家として花開くのは六十歳を過ぎてから――。

しかし、まれに若くして驚くべき技術と卓越した感性を兼ね備えた 特別な才能が現れます。彼ら彼女らは、年齢や経験からは 通常考えられない圧倒的な美と価値を生みだし、人々を魅了し、 大きな存在感をもって京都の工芸界の旗手となってゆくのです。

工人の作家たちは、若くして京都を代表する作家となった、まれに 現れる特別な才能たちです。各工芸分野を代表する特別な才能が 分野を超えて工人の名のもと、新しい価値を創造してゆくのです。

### たくみびと 工人の「3つのコンセプト」

#### 伝統=革新の連続

変わり続けなければ伝統ではない。 伝統とは、先人の模倣ではなく、その時代のニーズに合わせて 作家の磨き上げた感性と受け継いだ技術を注ぎ込んだ

その時代、その作家ならではの作品を生み出し続けること。

#### 常に最高級であり続ける

京都の工芸作品はいつの時代も最高級品であり続けてきた。 最高の技術、最高の品質、最高の価値—— 現代においてもなお京都の伝統工芸は最高の技術と品質、 価値を提供し続ける。これは京都の工芸作家の使命でもある。

### 作家個人の枠を超える

分野を超えた一流作家が集まることによってもたらされる 高いレベルの相乗効果、多様性や選択肢の提供、 技術の融合による新しい表現、これまでにない価値の創造。 作家個人の枠を超え、さらなる高みを目指す。



漆はウルシノキの樹液である 漆工芸は日本を代表する工芸の一つとされる技 術であり、文化である。

日本のさまざまな地域で発展した漆の技はそれぞれの文化と共にその特徴を持った。

切錆角皿「満つる」

やがてその美しさや性能には世界から注目が集まり、 日本を代表する工芸品の一つとされた。

5000年の歴史を超える人と漆の交わり その歴史の中で1300年を超えて育まれた京都の漆工芸

黒や朱の静謐でつややかなる塗肌 漆塗 金粉や銀紛によって描かれる意匠 蒔絵 海の光をその身に取り込ん貝の輝き 螺鈿

つねに自然からの恵みをその美しさに取り入れながら 時代と共に変化しながらも常に日本のこころを表して きた漆工芸

用と美を兼ね備え、人と共に育ち、美しく老いる。

そんな漆器が作ることが漆の物づくりの目標の一つだ。

## 三木 啓樂 Keiraku MIKI

### ---- 漆の魅力とは?

言葉で語るには深く広く、いつも自らの言葉の浅さを感じる。それでも漆と向き合えば、新たな魅力に心が動く。その感動は私にさらなる創作に向かわせる。 漆でのモノづくりはすでに私自身の人生の一部となっている。

1971年 京塗師 三代 三木表悦の長男に生まれる

京都市立芸術大学美術学部工芸科漆工専攻卒業

京都市伝統産業技術者研修漆器コース本科修了

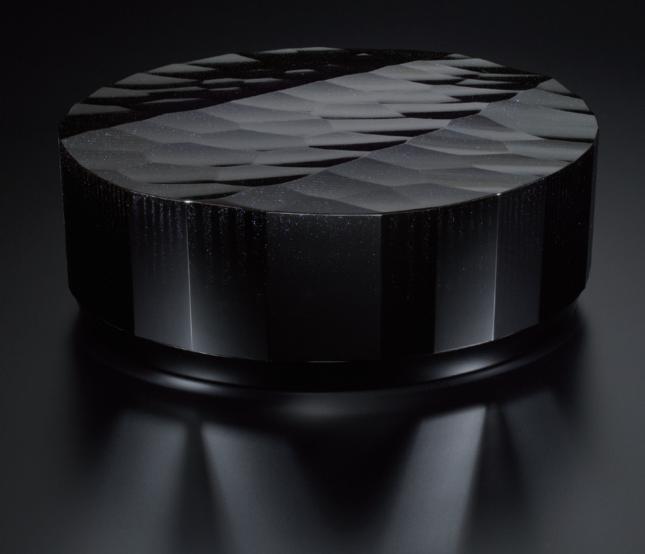
香川県漆芸研究所修了

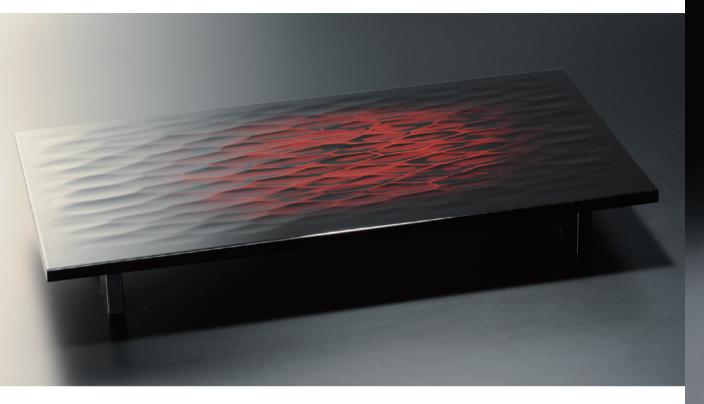
2009年 第27回京都府文化賞奨励賞

2013年 平成25年度伝統的工芸品產業功労者等経済產業大臣表彰奨励賞

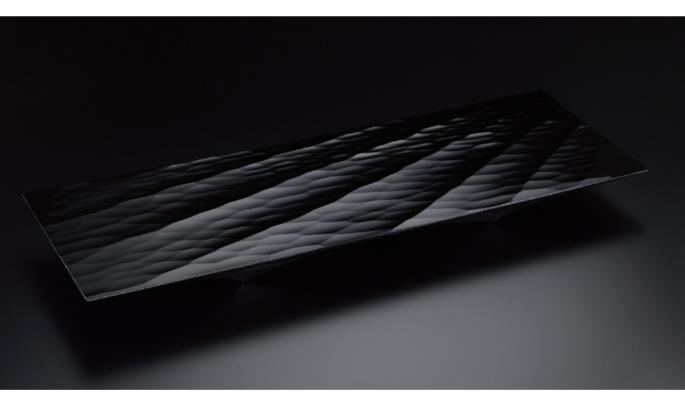
2015年 第1回藝文京展 優秀賞

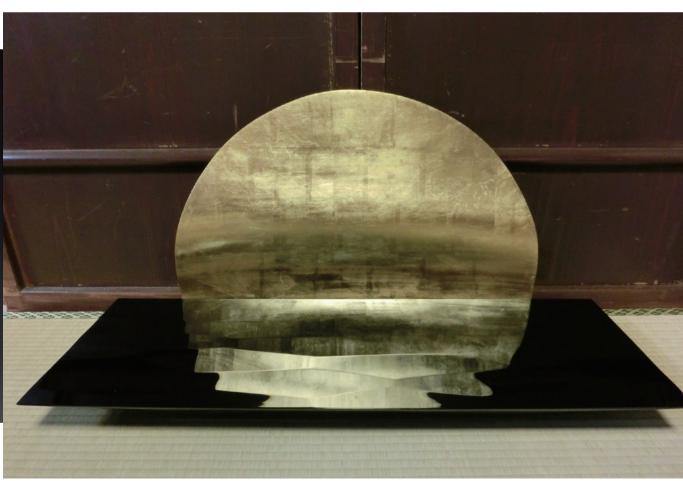
現 在 煎茶工芸協会正会員理事、日本工芸会正会員











# 手描さ京友禅

### - KYO-YUZEN dyeing -

友禅とは元禄時代、京都に生まれた紋様染めのことである。 布を染める技法は多種多様に古くからあるが、 友禅染めの誕生によって、華麗で多彩な表現が出来る ようになった。



### 着物の染色技法

着物の染色技法には、友禅、絞り染、型染め、 臈纈といった様々な技法がある。 その中でも手描き友禅は、すべての工程を 繊細で緻密な手作業によって絵画のように 描き染めていく、日本が誇る染色技法である。

一反の白生地から一枚の着物が完成するまで およそ20以上の工程がある。特に友禅に於 いて重要なのは、糸目糊置きであり、糸目糊 が防波堤の役割をすることで、染料をさして も色が滲んで混ざり合わないようになり、多 彩な表現が出来るのである。

京友禅は千年の文化を背景に、色彩はあざやかで洗練され、意匠は華麗かつ優美なものでなければならない。



1968年 羽田登の次女として京都市に生まれる

1987年 京都市立銅駝美術工芸高等学校日本画科卒業

1992年 京都市立芸術大学美術学部工芸科卒業

羽田工房で本格的な手描き友禅の修業を始める

1994年 京都市立芸術大学大学院美術研究科工芸専攻染織卒業

1996年 フランス・リヨン市のリヨン染織博物館「羽田家のきもの展」

2002年 ファッションカンタータfromKYOTOに出品(以降2003年、2007年、

2010年、2012年、2014年に出品)

2007年 第36回日本伝統工芸展近畿展 友禅訪問着「韻律」を初出品、初入選

2015年 琳派400年記念 現代作家200人による日本画・工芸展

「京に生きる琳派の美」展に出品

現 在 京都工芸美術作家協会会員 京都市DO YOU KYOTO?大使









## 佛像 - Buddha statue -

仏像とは元来美術品ではなく、仏のお姿を経典より再現した 象徴で、その時代、地域の最先端技術、素材を工夫して制作 し、指導者が願いや思いを語り伝える象徴であった。



「普賢菩薩座像」 冨田 珠雲 作

日本における仏教、仏像が伝来したのが西暦538年飛鳥時代の事である。

その時代日本になかった技術、鋳造の金銅仏に始まり、土を使った塑像、貴重な漆を使った乾漆像、そして日本の風土に合った木彫へと時代と共に流れる。

現在の仏像は多くは和様と言われる平安時代にできた儀軌を守り千年以上の時を経て、公家、武士好み、民衆から個人の好みをその時代の仏師が工夫を凝らし、仏像を発眼した人々の思いを大きく反映された仏像が誕生してきた。

その目に見えない仏を木の中より迎えた結果が後 世の人には美しく神秘的な仏像を生み出していく。

この様に仏像と共に発達した技術は鋳造、彫金、 鍍金、土彫刻、漆喰、漆の技術、金箔などの金加工、 彩色技術、装飾の截金、もちろん木彫の技術は進化 した。

仏教の伝来は現在の工芸技術に無くてはならない 文化であった。



工人では仏像だけでなく、仏師として木と仏像に関する 技術すべてを使い「現代に必要とされ、美しい工芸」を 制作していきたく思います。

1975年 京都市に生まれる

1998年 大谷大学仏教科卒業

2003年 大谷大学で初個展

2007年 新潟 長福寺に佛像として刻んだ天人迦陵頻伽を欄間の中に組み込んだ

佛像欄間を納める

2009年 京都大徳寺聚光院に烏枢沙摩明王を納佛

2010年 スリランカ 佛歯寺、国際佛教博物館に釈迦如来出品

2011年 京都 黄檗山萬福寺に隠元禅師、秋田 高建寺に本尊釈迦如来像納佛 2013年 福井 宝慶寺総門欅古材の模刻像をバーモント州 惺山寺に納佛

2014年 東京 瑠璃光院白蓮華堂に木曽檜材堅地本漆総粉載金仕様阿弥陀如来納佛

2016年 有馬 極楽寺に観音、勢至菩薩像衲佛

現 在 京都仏像彫刻家協会 会員













## 陶磁器

- Pottery -

土を練り固め焼いて作った陶器・磁器の総称である。 陶器と磁器の違いはガラスになる成分の量の違いだ けのため、まとめて陶磁器と呼ばれることが多い。



### 京都の陶磁器の特別な歴史

京都の陶磁器は京焼と呼ばれ、近年の研究で慶長年間初頭の1590年代末には生産が始まっていたと考えられている。

当時は千利休が六古窯(瀬戸焼・常滑焼・越前焼・信楽焼・丹波立杭焼・備前焼)の窯元に京都に窯を作らせたという話もあり(真偽は定かでは無い)、陶土があまり取れない土地で発展した希少な例かもしれない。当時は三条粟田口界隈で多く生産されていた。現在残っている清水焼は1643年までには存在が確認されている。

戦後、海外から作家という概念(一人ですべての作業を行い作陶する)がもたらされたことからそれまで行われていた分業が減り、現在は多くの作家と昔ながらの分業とが混在している。 京焼には色々な種類があるが、陶器・磁器以外にも釉薬や技法も多く存在する。

## 六代 小川 文齋

Bunsai OGAWA VI

ただ土と向き合い、火と語り合いながら物作りをしていると、自分の中の色々な景色が見えてくる。それを形にするのが私の使命ではないかと日々思っている。

1974年 京都市に生まれる

京都造形芸術大学大学院芸術学部彫刻コース修了

京都府陶工高等技術専門校専攻科修了

京都市工業試験場窯業研究室修了

2002年 第34回日展初入選(以降入選数回)

京展楠部賞、第57回全関西美術展読売テレビ賞、

京都工芸美術作家協会展協会奨励賞受賞

2005年 京都大丸百貨店アートサロン個展、大丸京都店美術画廊、

髙島屋京都店美術工芸サロンにて個展・グループ展を開催

2015年 六代 小川文齋 襲名

現在京焼文齋窯六代目当主、日展会友、京都工芸美術作家協会会員







皆様から頂いた沢山のものを作品を通してお返しできるよう日々精進し、この作品に関わる全ての人に思いが伝わりますようにと、心を込めて作ります。

1970年 京都市に生まれる

父 三代 諏訪蘇山·母 十二代 中村宗哲 三女

1988年 京都市立銅駝美術工芸高等学校漆芸科卒業

1992年 成安女子短期大学造形芸術科グラフィックデザインコース映像専攻卒業

同専攻科修了

1996年 京都府立陶工高等技術専門校成形科·研究科修了

1997年 京都市伝統産業技術者研修陶磁器コース本科修了

父と共に陶磁器の制作活動

各地にて中村宗哲展に出品、哲公房に参加

2002年 四代諏訪蘇山を襲名

現 在 各地にて諏訪蘇山展を開催











## 岡山 高大 Takahiro OKAYAMA

暮らしに必要なうつわとはなんだろう。 私のうつわをつかってくださるかたの生活に馴染むようなかたちを探して、あれこれと試してはやめ、また試す、ということを繰り返して来ました。

1976年 京都市に生まれる

1999年 成安造形大学 造形学部 造形美術科 造形表現群ファイバーアートクラス卒業

2000年 京都府立陶工高等技術専門校成形科修了

2001年 同校 研究科修了

2002年 京都市工業試験場 京都市伝統産業技術者研修陶磁器コース本科修了

2007年 ALTIGIANATO2007 出品(イタリア)

2008年 「京もの認定工芸士」認定

2013年 岡山 高大 陶展(髙島屋美術工芸サロン・京都)

2014年 「未来の名匠」認定

2016年 岡山 高大 陶展(髙島屋美術工芸サロン・京都)

現 在 独立行政法人 京都市産業技術研究所 伝統産業技術後継者育成研修講師











ひとつの作品には「土」「釉」の変化による様々な表情があります。そして作り手の心によって作品の個性が生まれます。陶芸の奥深さ、伝統そして数限りない可能性、この中で作品から「私」を感じて頂ければ幸いです。

1977年 京都市に生まれる

成安造形大学造形美術学部造形美術科芸術計画群卒業 京都府立陶工高等技術専門校陶磁器成形科・研究科修了 京都市伝統産業技術者研修陶磁器コース本科修了

2005年 四代涌波蘇嶐を襲名

2008年 松坂屋高槻店で四代襲名展開催

2012年 大和香林坊店 個展

2014年 大丸心斎橋店 個展

2016年 大丸京都店 個展

現 在 各地で個展・グループ展を開催







伝承とは先達から受け継いだモノ・スベを後世に伝える事である。 伝承しつつもそれらを自分なりに昇華し『伝統』を創造する、それがモットーである。

1977年 三代叶松谷の二男として京都市に生まれる

同志社大学商学部卒業

京都府立陶工高等技術専門校 成型科卒業、同研究科卒業

京都市工業試験場 窯業科陶磁器コース本科修了

2003年 三代松谷に師事 グループ展『瓢箪から駒~陶展~』以降随時開催

2008年 『同志社大学クラーク記念館』洗礼盤、聖餐台、講演台レリーフ制作

2010年 高島屋京都店 個展(2013年にも実施)

2011年 新天地を求めた京焼展出品(京都文化博物館

2013年 京焼 技と美の継承展(佐川美術館)、京焼の用と美(ケルン・ドイツ)

2014年 京焼歴代展一継承と展開一(京都市美術館)

2016年 高島屋大阪店 開運招福・えんぎもの・三人展

「京もの認定工芸士」となる







天目釉の神秘的な表情は私自身が予想だにしない 結晶を放つこともあります。それこそが 他の焼き物にはない魅力であると感じています。

1984年 京都市に生まれる

京都府立陶工高等技術専門校 陶磁器研究科 修了

京都市伝統産業技術者研修 陶磁器コース本科 修了

2007年 京都女子大学付属小学校創立五〇周年記念 陶芸展 出展

2010年 フジテレビジョン開局五〇周年記念ドラマ『不毛地帯』作品提供

2011年 京都女子学園創立一〇〇周年記念 陶芸作家展 出展

2013年 東京 日本橋三越 本店 初個展

2014年 第七回現代茶陶展 入選、第二回陶美展 入選(以降十五年)

第三回そば猪口アート公募展 特別賞、京都 六々堂 個展

2015年 ニューヨーク 日本のアンティーク着物 その素晴らしいデザイン展 出展

現 在 京もの認定工芸士、京都市伝統産業技術者研修 陶磁器コース・陶磁器

応用コース 成形実習 講師











### 作家の本分、工人の試み

作家は、自身の技術と感性を作品に込め世に問うのが本分です。 しばしば美術館やギャラリーにおいて作家の作品が世に示され、 表現された美に訪れた多くの人々は酔いしれます。

しかし、工人は新しい美と価値の創造に挑戦します。

工人の作家たちは、使う人の価値やストーリー、工芸とは異なる 価値の担い手たちと向き合い、工芸作家の技術と感性が交わる 新しい価値の模索から作品を生み出そうとしています。

### この世でただひとつの美と価値をあなたに

これまで出会ってきた素晴らしい作品の数々も、 残念ながらあなたのために作られたものではなかったでしょう。

工人が生み出す作品は、あなたの価値と作家の感性が交わり、 伝統の技術によってそのストーリーを刻み込んだ、 あなたのためだけに作られるこの世でただひとつのものです。

その作品は、これまでにない価値を提供し、人生を豊かにし、かけがえのない存在となるでしょう。

工人では、オーダーによる作品制作や 企業等とのコラボ、京都や和に関連するイベント等 通常は工芸作家が行わない制作についても ご相談をお受けしております。

あらゆるご相談は事務局にてお伺いしており、 複数の作家(協働的または選択的な場合を含む)への ご要望、実現の可否、期間、予算等についても 一元的な窓口で対応いたします。

#### 工人 作家カタログ 2017-

### 執 筆

『漆工芸』 三木 啓樂 『手描き京友禅』 羽田 登喜 『仏像』 冨田 珠雲 『陶磁器』 小川 文齋

### 写真撮影

星野 裕也 中島 光行 necessitafotografica 和田 亮輔

シェフ

FrancescoPesce

制作指揮

古川剛

たとみびと

有限責任事業組合 工人 京都市東山区山城町282-1 https://takumibito.kyoto/